

阿多古
祀符 火通要慎

昔も今も用心第一



町家と町を火事から守る

イラスト作成：吉田真知子（大阪成蹊大学芸術学部）

町家で 火事を出さない 広げない

飲食店編



京町家ネット

NPO法人 京町家再生研究会・(中)京町家作事組・京町家友の会・京町家情報センター

町家で火事を出さない 広げないための 三つの心得

- 一に用心
- 二に知識
- 三に備え



昔も今も用心第一

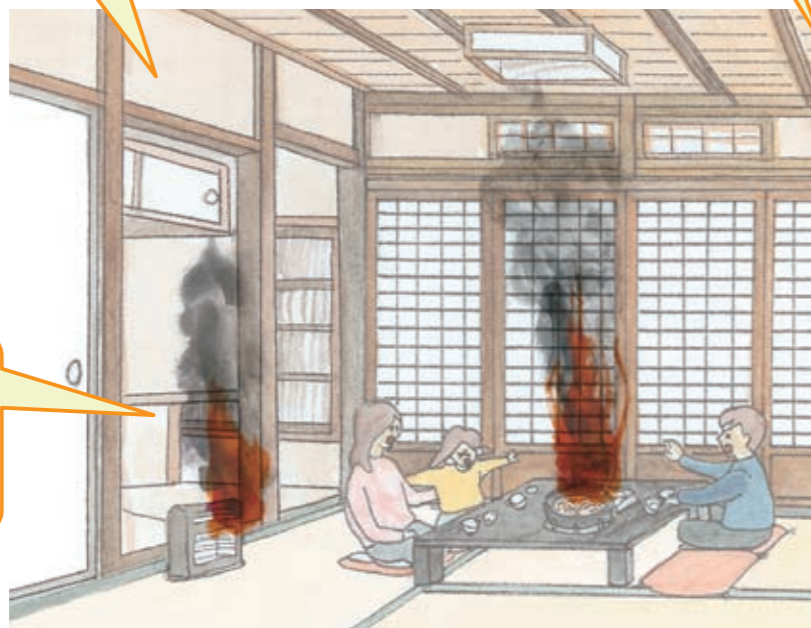
用心

木造もその他も出火件数の割合は変わらない。しかし町家から出火すると類焼率が高い。用心第一。昔も今も愛宕さんのお札は霊験あらたか。

- ハシリは防火上万全、ひきかえ室内は畳、紙、天井板と燃えやすいものばかり。たばこ、ストーブのように火の見えるものだけでなく、熱（アイロン、電気ストーブ）、電気（コード）にも用心。
- 出火原因のトップは放火。夜間も用心が不可欠。

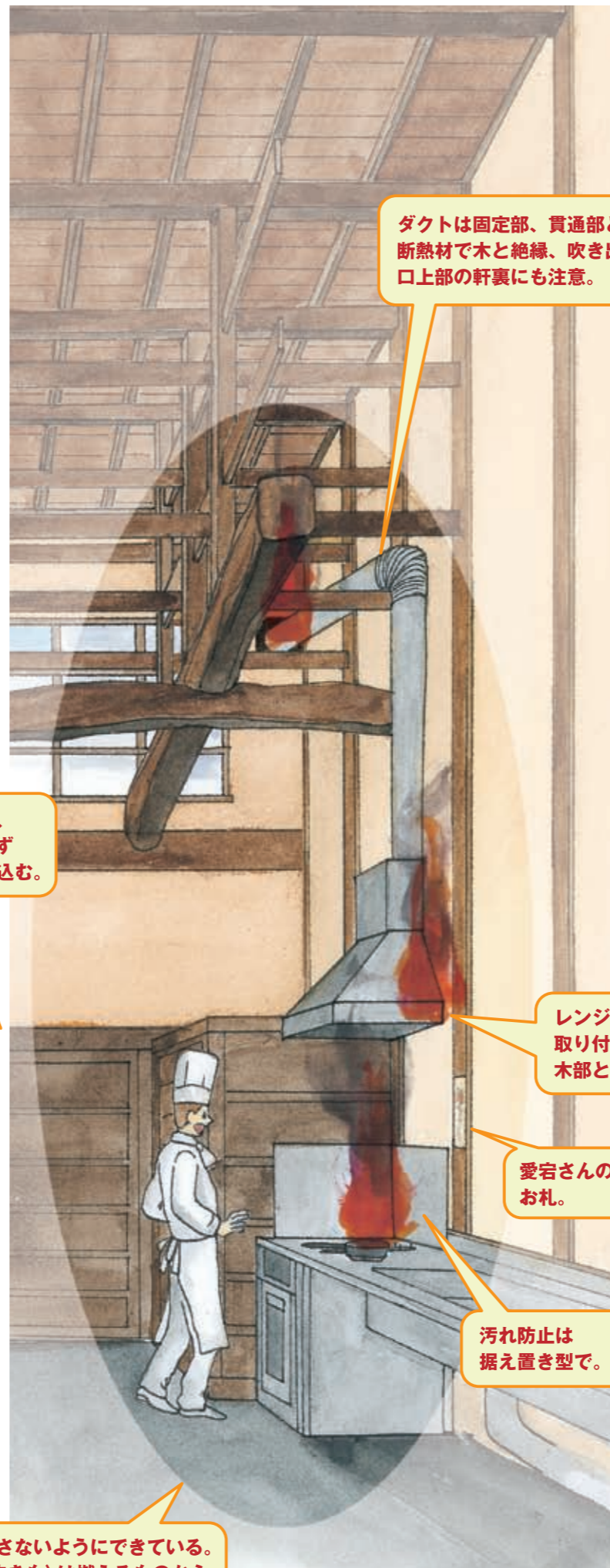
できるだけ室内には火や熱を持ち込まない。使用するときは細心の用心を。

室内は出火すると一気に燃え上がる（フラッシュオーバー）火も熱も燃えるものから遠ざける。



室内との境は土壁、2階にも窓を設けず火気使用部を囲い込む。

ハシリは燃え上がりを起こさないようにできている。コンロ（魚焼きグリルの熱抜きも）は燃えるものから30cm以上離す。



ダクトは固定部、貫通部とも断熱材で木と絶縁、吹き出し口上部の軒裏にも注意。

レンジフードの取り付け部は木部と縁を切る。

愛宕さんのお札。

汚れ防止は据え置き型で。

備え

防火も消火も地域の協力が不可欠。火事は一人では防げないし、抑えられない。

- いざというときには地域（自主防災）、消防団、消防署の連携が不可欠。万が一には地域だけで守る。日頃のコミュニケーションと防火訓練が大事。
- 消火器のABCは普通火災、油火災、電気火災対応のこと。便利で有効な初期消火器具であるが、使用体験がないと役に立たない。
- 火災発生原因の4割近くが放火。直に建物には火はつかず、家のまわりに置かれた燃えるもの、ガレージや物置の戸締まりが原因。夜回りは放火防止に有効。

知識

ハシリ（通りニワ）は防火上万全のつくり。合板を張ったり火袋に天井を張ると、燃え上がりや低温発火の危険性が一気に高まる。

- 木材は熱せられると多孔質化し断熱材のように蓄熱する、その状態で連続して熱せられると100℃前後でも発火する。
- 石油ストーブよりも電気コードによる火災発生件数が上位。コードを圧迫したり接続したままのコンセントにホコリがたまると、発熱、発火する。

施工不良でダウンライトが木に接触。



火袋に天井を張ると燃え上がりの危険性が一気に高まる。

フードやダクトが木に接触。

オープンや蒸し器など。ステンレス、断熱材を貫通したビスを通して木に熱が伝わる（ヒートブリッジ）。

電線が圧迫されて加熱、短絡発火。

差し込み部にほこりがたまって短絡発火する。



日頃の地域とのコミュニケーションが大事。



防火訓練への参加も不可欠。